

スクール開講10周年を迎えて



先約のインドネシアでの集会と重なり、遅れて、夕方の到着となりました。するとエッガー先生が出て来られ、優しく「小笠原先生は欠席された分を自習すれば規定内ですから、これからここでビデオを見て補ってください」と言われ、ビデオ室に一人残されました。今迄自分の好きな時間だけ出れば良かった「セミナー」に慣れていた私は「スクール」の厳しさに恥じ入りました。「居残り授業をさせられたのはいつの日か？」と悪童時代のありし日を懐かしみながら課題を果たしました。全過程修了後、共に行った7人と相談し、すぐに教会でビデオスクールを始め、早や8年になります。毎回聖霊の顕著な働き、癒され難い傷からの癒しと解放、共同体（セル）の真髄の体験に驚嘆し感激しています。「教会にエリヤは欠かせないね」と常に皆で述懐しています。

練馬グレースチャペル牧師 小笠原 孝

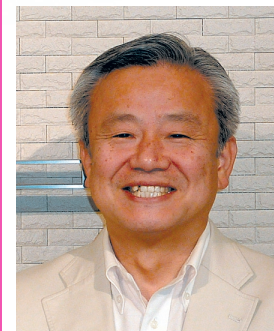


今から8年以上前、北海道旭川で牧会をさせていただいていた時、当時の大津バプテスト教会主任牧師の浜崎先生から、「札幌でエリヤハウスを受けてから、大津に来てください」と言われました。

『エリヤハウスって、どんな家？』、そんなことを思い巡らしながら、札幌の会場に向かっていたのを今でも思い出します。祈りのミニストリーが、聖霊様の働きであることを知ったのは、グループタイムを体験してからでした。自分には問題はなく、問題があるのは自分以外の人であると思い込んでいた私でしたが、自分の中にこそ、歪んだものの考え方や、傷ついている領域があることが示され、聖霊様に取り扱っていただきました。Week 2では、怒りの問題を取り扱っていただきました。初めは自分に怒りがあることを否定していましたが、思いっきり怒りをぶちまいていました。でも次に腹の底から喜びが込み上げてきました。それは、聖霊様によって解放されたひと時でした。その時から、少しずつですが、夫婦

の関係も回復してきました。これが私です。これからも聖霊様の愛と命を流していきたくと願われています。

大津バプテスト教会牧師 上田 益之



「エリヤハウス祈りのミニストリースクール」が開講10周年を迎え、日本全国、教団教派を超えて、働きが進められ、1,000名を超える方々が、Week4までを修了されたことを、うれしく感じています。私たちの教会でも、中心的な

聖徒は、ほとんどWeek4まで修了し、次の若い世代が受講始めるサイクルに入っています。この働きで教会の中に、個人の内面的聖化、成熟の道筋が整えられていることは、素晴らしいことと感じています。心の奥の福音化されていない部分に、みことばの光が入り、個人が変えられ、夫婦、親子の関係が変えられ、人々が人生を喜びの中に歩まれるようになるのを見ると感動せずにはられません。次の10年もこの働きが日本の教会の大きな祝福となりますことを願っています。

シティビジョン・グローリーチャーチ牧師 増田 哲之



グレースコミュニティは1995年から家の教会として新たな歩みをスタートしました。皆が心を開き分かち合いの楽しさを感じ始めると同時に、内面の難しさにも直面しました。ちょうどその頃、1999年大津バプテスト教会から「変えられるための鍵」のセミナーの案内が届きました。これが私たちとエリヤハウスとの出会いでした。あれから10年以上教会は真剣に熱心に、いつもエリヤハウスに取り組んできました。その結果私たちは多くの実を結んでいます。頑張ったクリスチャン生活から脱皮し、イエス様の優しさを経験するようになりました。今、私たちは自分も癒されながら癒しに携わっています。

グレースコミュニティ牧師 益田 静子



1999年の3月ころ、私は2人の教会研修生とともに、車で横浜から大津に向かっていました。その前の年から私たちの教会（本郷台キリスト教会）と愛知県の国際キリストチャンバプテスト教会（ICBC）、大津バプテスト教会の3教会でMTC（ミニストリートレーニングコース）を香港のベン・ウォン師の指導の下に始めたのでした。

それぞれの教会が約1週間弱の集中講習を計画してそこに自分たちの教会の研修生を連れて集まるのでした。その年、大津バプテスト教会が用意していた集中講習が、祈りのカウンセリング…「変えられるための鍵」セミナーでした。これが日本においてエリヤハウスが導入される一番最初のセミナーであったと記憶しています。

その年のある日、その大津バプテスト教会から宣教師のエッガー先生が私たちを訪ねて来られました。翌年の2001年にエリヤハウスの創始者であるサンフォード先生を日本にお招きしてセミナーを開きたいが、その首都圏におけるセミナー会場として教会を提供してほしいとのことでした。私たちは喜んでお引き受けしましたが、結果的にそのセミナーはとても盛況で素晴らしいものになりました。横浜での滞在中、サンフォード先生とはゆっくりと交わる機会が与えられました。

私はそこまでの講義を通して、この「祈りのカウンセリング」なるものが単なるカウンセリングの新しい技法ではないことに目が開かれました。それはまさに心の傷ついた者をいやす福音の働き、聖霊の働きであったのです。日本のキリスト教諸教会においては、牧会の働きにカウンセリング技法を取り入れることは賛否両論のあるところでした。この良き働きが日本全体に速やかに広がるために、このカウンセリングという言葉を使うことを避けたいと強く願いました。

そこで交わりの合間にサンフォード先生に、日本にこの働きを導入するにあたっては「祈りのカウンセリング」という言葉を避けて「祈りのミニストリー」という名称で導入していきたいとお願いしました。先生も賛成して下さい、それ以後アメリカにおいても、カウンセリングという代わりにミニストリーという言葉を使えるだけ心掛けて使うようにしていただきました。

日本でのセミナーを終えて関係者が集い、翌年2001年からミニストリースクールのライブスクールを開催して録画し、そこからビデオスクールに進むことが決定されました。残念ながらその2001年はニューヨークの同時多発テロによってさまざまに影響されて開催することができませんでした。2002年にライブスクールが開催されて今日に至っていることは主の素晴らしい御業です。それ以降の全国各地、さまざまな教会で開催されたスクールを通して、多くのクリスチャンたちの霊のいのちが解放され、教会が力を増し加えられていることはこの働きによる祝福です。

本郷台キリスト教会牧師 月井 博

エリヤハウス・ジャパンの取り決め

2007.4.26

I. 名称

本会を、エリヤハウス・ジャパン(以下EHJ)と称する。

II. 目的とビジョン

EHJは、ジョン&ポーラ・サンフォードご夫妻により1974年にアメリカにて設立されたエリヤハウスinc.とビジョンを共有し、日本における「主の時」に備える非営利組織です。以下の3つのことを目的とする。

1. 救われた一人一人がキリストに似るものと変革されていくことを目指す。
2. 御言葉の真理と祈りのミニストリーを通して、家族をはじめとする人間関係の回復を目指す。
3. キリストの体である教会に仕え、教会を通して今日の社会にいやしと変革のわざを現していく。

III. 事業

以下の四つの事業、その他を行なう。

- ① 教会の健康と人々の救いのために祈る人を育てるために、国内各地で、教会主催でEHJスクールを行なう。
 - ② EHJの働きを広く知らしめるため、スクール参加者を促すためにEHJセミナーを行なう。
 - ③ 必要を持った人々の内なる人々の変革のために、EHJミニストリーを行なう。
 - ④ 目的とビジョンを推進するために必要と認められた著作、翻訳などEHJメディアの出版を行なう。
- その他、EHJ推進しもべ会が必要と認められたすべてのことを行なう。

IV. 組織

次の働き人を置く。

- ① EHJの目的とビジョンを達成するために、その実務を担うディレクターを任命する。
- ② その事務的職務を担当するオフィス・ディレクターとスタッフを立てる。
- ③ 諸教会とEHJに仕えるために、推進しもべ会を置く。
- ④ 推進しもべ会の働きを地域で担うエリア・コーディネーターを置く。
- ⑤ 御心を訊ねながら働きを進めるために、とりなしチームを立てる。